

編集後記

国内・国外を問わず膨大な数の雑誌が、押しよせる波のように出版されている。そのような現状の中で、本誌を発行することに対していろいろなお考えがあるのは当然であろう。編集に携わるものとしては、多少なりとも意義があると思っている。シンポジウムを例にあげると、記録に残すことによって後で読み返すことができるし、出席できなかった人にも読んで頂くことができる。また、シンポジストの方々には、ご苦労だったかもしれませんが、ご自分の仕事についてもう一度整理する機会にもなったのではあるまいか。

自然科学の世界では、無から突如として素晴らしいものが生まれることはない。生物に

しても長い進化の歴史を経てきたものである。医学上の大発見にしても、それまでの多くの経験や実験にもとづいてはじめて到達することができたのである。本誌のような小さな営みも、毎年積み重ねることによって、少しずつでも良くなり育っていくことを希望している。皆様の投稿・ご意見など、どしどしお寄せ下さい。

また、ご退官の細菌学・免疫学講座教授小西健一先生、内科学第1講座教授矢野三郎先生には、本会のために長年にわたりご尽力いただき、有難うございました。

(川真田 聖一)

編集委員

川崎 匡(委員長)

飯田 博行	久世 照五
上村 清	高田 正信
川真田 聖一	田澤 賢次